

一九五三年（昭和二十八年）八月二十四日

筆の友創刊号発行

発行の御挨拶

会長 松岡雲峰

の方も多いときいております。

本会はかかる現状下における一般書道ならびに教育書道の健全なる発展を図るため敢て本誌の発行を企図いたしました。現代の息吹の中に書の傳統を守りながら、しかもその枠内にのみ閉じこもらずひたすら念願達成のため邁進して行きたいと思つております。

新春を迎えたみな様愈々御健勝のこと、存じます。さてこのたび本会に於て「筆の友」発行を企画いたしましたところ幸に各方面の御賛同と絶大なる御協力を得ましてここに第一号を発行する運びとなりましたことは、本会にとりましてこの上もない喜びでありまして衷心より厚く御礼申し上げる次第であります。

私はこの機会に「筆の友」発行の趣旨とその目標を述べましてみな様方に更

に深い御理解と御協力を願いいたす次第であります。御承知の通り戦後一時混迷の極に達した書道もようやくにして反省の時期に到達しその正道にかえりつゝありますことはまことに喜ばしい事であります。

この現代日本書道の歩みの中に本縣書壇も又活発な動きを示し、かつて戦前書道王国を謳歌した当時のそれには及ばないとしても最近著しく飛躍し再び全国的に書道土佐の面目をほどこしつゝありますことは何と申しましても心強い限りであります。

又仮名書道發展のため仮名部をも設けております。

小学校部におきましては、つとめて系統を重んじ書写技術の理解徹底をはかり、毛筆習字と硬筆書き方の連鎖的價値の拡充をねらつて実生活へのつながりをもたせると共に、藝術的分野への發展をも十分可能ならしめるため教育的見地から最も中庸を得た穩健整正なる書風をもつて手本といたします。したがつて實際教壇に立たれる先生方の教材研究の資料として、又直接教材としてもそのまま、に利用でき得るよう心がけております。

中学校におきましては更にこの段階の上に立つ事は勿論でありますが藝術書道の面をおきましては、まだ小学校ならびに中学校三年におきまして全面的に習字のとり入れられてない憾はありますものゝ、ここ二、三年間に相当の普及進歩をみ、量的には必ずしも満足すべき状態にあるとは申せませんが質的には中央でもかなり高く評價されているのであります。しかしながら書道教育は学校教育の一環でありこれが教育の場の中に適正にとり入れられなくてはその目的を十分に達成することはできないのであります。

書道教育のあり方については十分考えるところがなくてはなりません。しかるところ実際教育の現状をみます時、その考え方において將又その書風において必ずしも満足すべき状態でなくその進むべき方向さえ見失いお困り

「筆の友」発刊にあたりまして御挨拶といたします。

において必ずしも満足すべき状態でなくその進むべき方向さえ見失いお困り

小、中学生のみなさんへ

このたび「筆の友」を出すことになりましたところ、みなさんがた多數御入会下さいましてありがとうございます。これはひとえにみなさん方のごかていの方々の深いごりかいと、先生方のおみちびきとそしてみなさん方自身の一しおけんめいお習字をしようという心がけが一つになつてあらわれたものであります、ほんとに意義深いことです。私たちの方では少しでもみなさんのお役にたつため一しおめんけいど力したいと思つております。どうかみなさんも日ごろのべんきょうに、そして又きょう書の出品に大いにがんばって下さい。

すなおで、あかるく、のびのびとした、ほんとに美しい字を書いてください。みなさんの成長をたのしみにしています。